



原点 廻帰

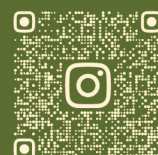
GENTENKAIKI



まっちゃ餅



X



Instagram

The background of the page is a soft, painterly illustration. It depicts a person with long, flowing hair lying down, possibly on a bed or a large rug. The person's face is partially visible, resting on their hand. Surrounding the person are various elements of nature, including large, detailed flowers and clusters of small, round fruits or berries. The color palette is muted and earthy, featuring shades of green, yellow, and brown, with a slightly hazy, dreamlike atmosphere.

目次

目次・・・・・・・・・・ 02

前書き・・・・・・・・・・ 03

作品解説・・・・・・・・ 04/05

画材紹介・・・・・・・・ 06/07

はじめに

私は今回の卒業制作で、「日本画」を用いて作品を制作した。三年間の集大成を日本画という伝統的な表現方法を選んだのは、自分は好奇心が旺盛で挑戦的なことをしたかったからだ。なので思い切って初の日本画大作に臨んだ。

3年間で沢山の絵を描き触れて思ったのは、私はどんな作品に興味を持ち、どういった絵を作りたいのだろうかということ。絵といっても沢山あるが、私の感覚で平面表現は2種類に分けておりイラストレーションと芸術的作品に分けてみている。もちろんどちらも好きなのだが、ここ最近趣向として圧倒的に後者に惹かれていると強く感じている。

また、デジタルよりもアナログが好きだということに気づいた。沢山の方々の作品を目前にしてきたが、アナログの圧倒的な迫力や魅力は印刷されたデジタル作品よりもはるかに心が惹かれる。それと、アナログはたった一つの価値があるものに生まれ変わるという性質もとても好きだ。

この卒業制作は終わりを意味するのではなく、実験的であり挑戦的で、新たなスタートラインである。日本で発達した独自の様式を有する絵画を研究し、自分の新たな表現を見つけるきっかけになれば良いと思う。

制作期間

2024/09/05~2024/02/13

使用画材

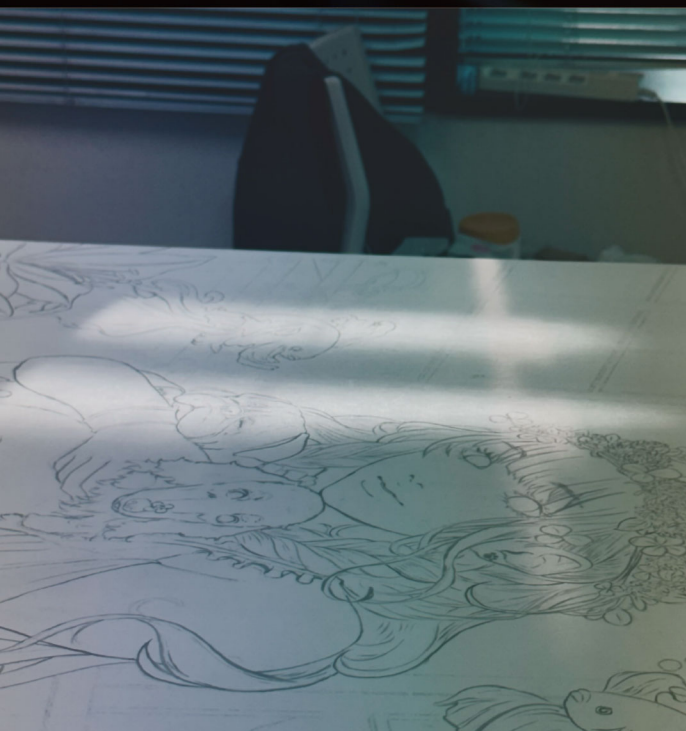
雲肌麻紙、岩絵具、水干絵具、箔



作品解説

コンセプトは「自分を振り返り、大事だったものや好きなものを再認識する」だ。
人はそれぞれの生き様があり、その過程を経て今の自分になっていると思う。人生には大切なものだったり嫌だったけど大事だったこと、好きなものがあるはず。それらはきっと今の自分を作り上げてきたものだ。その自分という存在を肯定するために、辛かったことや大事だったものを忘れ捨てるのではなく心のどこかに大切にしまっておけたら素敵だと私は思う。

このコンセプトをもとに、この絵の中には私の人生で大事であり辛かったけど大切だったものや、好きなものが描かれている。この絵の女の子は私を重ねている。大きくなった主人公は小さい頃の自分の部屋に戻り、幼少期から持ち続けてきた大事なものや好きな物を抱え、思い出に浸っているところ。部屋は幼い頃からこの子が使っていた部屋で、時間が経ち植物が茂っている。





岩絵具(いわえのぐ)

岩絵具は、主に鉱石を砕いてつくられた粒子状の日本画絵具。粒子は砂のように粗く、艶のないマットな質感が特徴。絵具そのものに接着性はなく、膠液を加えることにより支持体に接着する。岩絵具には、「天然岩絵具」「新岩絵具」「合成岩絵具」がある。天然岩絵具は、天然の鉱石を砕いてつくられた岩絵具。希少で色数が少なく高価ですが、膠液となじみやすく、天然ものは独特の深みのある色がでる。

水干絵具(すいひえのぐ)

水干絵具は古くは泥絵具と呼ばれ、山から採掘した土を「水」で精製して不純物を取り除いた後に、板状に「干」したものが絵具として使用されてきた。吉祥水干絵具は古来の製法をそのままに、これまで限られた土の色でしかなかった泥絵具を、最新かつ高品質な顔料を加えることで豊かな色彩を実現した。さらに岩絵具に比べて混色性に優れているため、色数は無限大。扱いやすく、耐久性にも優れている。



胡粉(ごふん)

胡粉(ごふん)は、牡蠣・蛤・ほたて等の貝殻からつくられた日本画の白色絵具。主成分は炭酸カルシウムで、微粒子でなめらかな艶のないマットな質感が特徴。胡粉そのものに接着性はなく、膠液を加えることにより支持体に定着する。胡粉の用途は幅広く、日本画絵具の中でも重要な絵具。白色としてだけではなく、色数の少なかった日本画絵具の混色に多用されてきた。

膠（にかわ）

膠は、主に動物の皮を加工して作られる、長い歴史と多くの用途をもった接着剤。日本画で使用する岩絵具、水干絵具は単体では画面に定着させることができない。膠液を混ぜて、筆などを使って絵を描き、それがゆっくりと乾きながら、画面と絵具が接着し、絵具そのままの色彩が表現できる特徴があり、時間はかかるがとてもよい接着剤である。濃度や固着時間の調整が必要。



和紙（わし）／雲肌麻紙

和紙は日本画を描く上で欠かせない基底材の一つ。日本画絵具の中には、水干絵具や岩絵具のように、それ自体では定着力を持たないものがある。そのため日本画では、基底材との接着材として膠が使われるが、膠の接着力は非常に強力であるため、強度のない紙では画面に亀裂を生じる可能性がある。しかし、和紙は他の紙と比べて繊維が長く、耐久性と柔軟性を兼ねそなえているため、そうした危険が少ない。

箔（はく）

古くから金壁障壁画などにみられるように、その優美な装飾性が日本絵画の特徴のひとつとされて広く知られている。箔は金、銀、銅などの金属を薄く打ち延ばして四角く切りそろえたもの。それぞれの材質によって金箔、銀箔と呼ばれ、特に平安時代から江戸時代にかけては、金箔や銀箔を使った絵画や仏像などが盛んに作られてきた。



